



講演①

戦後に造成された人工林が成熟期を迎え、木材生産の基盤として期待されている。一方、担い手の減少やシカの増加といった課題も深刻で、水や土を守る力、美しい景観、生き物のすみかとしての役割など、森林の多面的な機能にも注目が集まっている。私たちは、高知県吾川郡いの町を対象に、森林が持つ様々な機能を地図や数値で「見える化」する研究を進めてきた。その成果を通じて、今後の地域の森づくりの可能性を探りたい。

講演②

地域の森林管理について検討するにあたり、今後は森林所有者や林業関係者のみならず、様々な住民の方々の意向を把握することがより重要になっている。しかしながら、人によって森林に求めている機能の重要度は異なる。そこで、高知県のいの町の住民の皆様にアンケート調査を実施し、森林の持つ6つの機能について重要度の重みづけをしていただき、個人属性や居住エリアなどによる考え方の違いについて分析した。

講演③

森林は木材生産や、生物多様性保全、水源かん養、保健休養など様々な恩恵（生態系サービス）を人間社会にもたらしている。本発表では、いの町を対象に、生態系サービスがどのような場所からもたらされているか解析・評価した地図を紹介する。また、それらの恩恵が、将来の森林とのかかわり方によってどのように変わっていくか試算結果を報告する。これらの解析結果は、地域で森林の将来像を描くうえで、重要な指針となる。

講演④

昨年度から、高知県のいの町を対象に、住民への森林の多面的機能に対するアンケート調査や機能別地図の作成を進めた。これらの成果を林業関係者や地域住民と共有するため、町内で開催された「むささび温泉山談義」にて報告し、参加者と議論を行った。また、そこでの議論を踏まえながら、町・県・国の行政関係者と協議の場を持ち、地域の実態に沿ったモデルや地図を作成するための議論を行う予定である。本講演では、こうした対話を通じて明らかになった課題や知見について報告する。

講演⑤

東近江市では、集落単位で地域の森林について地域住民と市だけではなく、林業関係者、学識者、県職員等様々な関係機関を交え、課題を共有しながら将来の森づくりや資源利用について話し合う「東近江市100年の森づくり地域ワークショップ」を開催している。このワークショップを通じて「集落ごとの森づくり方針」を策定し、森林の整備と資源活用の推進を図っている。講演では、ワークショップ開始の経緯や現状、そして今後の課題について報告する。



日時

令和7年11月25日(火)
13:00~16:00 (開場 12:00)

場所

高知会館 (白鳳 2F)
高知市本町 5 丁目 6-42

問い合わせ先

森林総合研究所

四国支所 地域連携推進室
〒780-8077 高知市朝倉西町 2-915

TEL 088-844-1121 (代) Mail koho-skk@ffpri.go.jp

※おかけ間違いにご注意ください

